

令和6年度 図画工作科 授業改善推進プラン

大田区立おなづか小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・つくったり表したりする造形活動に興味をもち、意欲的に取り組むことができています。
- ・道具の使い方、扱い方を習得し、表現に生かすことができる児童が増えた。
- ・年間計画に単元（道具の使用や版表現など）の系統性をもたせたことで、既習事項の活用に結び付け、表現を広げ、深めることにつながった。
- ・図工が「楽しい」「自分で考えて表すことができています」と感じている児童が増えた。

(2) 課題

- ・思い付いたことを作品に表現するために、自分で考えて工夫すること、失敗した経験からより良い作品をつくる意欲につなげることが難しい。既習事項を生かす題材設定や、確実な技術指導を通して見通しをもたせ、計画的に作品づくりに取り組ませる必要がある。
- ・ICTを活用し鑑賞や作品づくりに役立てる。

2 分析（観点別）

① 低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・素材に触れて感覚を働かせることや、新しい道具の使い方を覚えて作品の幅を広げ、造形的な視点を育むことができる児童が多い。	・材料の使い方を考えたり、活動中に思い付いたことから発想を広げたりしている。 ・友達の作品の良いところを積極的に探し、自分の作品の気に入っているところを友達や先生に伝えることができる児童が多い。	・自分のやりたいこと、表したいものを考え、意欲的に活動に取り組むことができています。 ・自分の作品に愛着をもって活動する姿が見られる。

② 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・思い付いたことを作品に表そうとすることができる児童が多い。 ・既習事項を活用し、表現の幅を広げたり発想を深めたりしながら作品に取り組むことができる児童が多い。	・材料や題材から豊かに発想する姿が見られる。 ・材料の使い方や表現方法を工夫し、意欲的に活動に取り組む児童が多い。 ・友達の作品や活動に関心をもち、良いところを見付けている。	・材料や道具に積極的に関わり、意欲的に活動することができる児童が多い。 ・楽しみながら豊かに発想し、作品に表そうとしている。

③ 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・材料や題材から発想し、表現に向けて既習事項を生かそうとする姿が見られる。 ・道具や材料の使い方を工夫して作品に表すことができる児童が多い。	・既習事項や参考作品から、自分の表したいものを見付けようとする姿が見られる。 ・自分が感じ、思い付いたことを表現するための手段や技法を考え、工夫して表	・材料や道具に関心をもち積極的に活動に取り組み、表現しようとしている。 ・つくりたいと思ったものに対して、集中して積極的に取り組むことができる児童が多い。

	そうとする様子が増えてきた。 ・友達の作品の良さを見付けることができる児童が多いが、友達の表現を尊重することができない児童もいる。	
--	--	--

3 授業改善のポイント（観点別）

（1）低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・道具の正しい使い方や扱い方をきちんと教え、発想や表現の幅が広がるようにする。 ・材料や道具の使い方や扱い、特性をしっかりと教え、基礎基本を定着させる。	・導入で、活動内容を丁寧に伝え、児童が確実に理解してから、活動に取り組ませるようにする。自分で考え、工夫して表すようよう声掛けをする。 ・板書を簡潔にまとめ、活動内容や作業手順が理解できるようにする。	・教師が活動中に肯定的な声掛けを行うことや、鑑賞の時間に児童同士が友達の作品を認め合う発言をするよう促すことで、作品づくりを通じた成功経験や達成感を味わい、表現する楽しさを実感できるようにする。

（2）中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・安全指導を徹底しつつ、道具の使い方、材料の扱い方を定着させる。表現に合わせて工夫できるようにする。 ・自分が表したいものに合わせて材料や道具を自分で選択できるような題材設定や声掛けを行う。 ・作品を通して、表したいものを伝える工夫ができるようにする。	・既習の学習経験を生かして自分のつくりたいものを考え、工夫できるようにする。 ・鑑賞の時間に、友達の作品の良いところを見付け、児童同士で伝え合う事ができる環境をつくる。自分の発想や表現方法の幅を広げるよう鑑賞のポイントを具体的に伝え、作品の見方を指導する。	・つくりたいものが技術的に難しいと感じた時、粘り強く取り組むことができる児童が少ない。作品完成に向けて、つくりたいものを考え、見通しをもって計画的に作業ができるようにする。

（3）高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・道具の正しい使い方を定着させる、繰り返し経験させ、作品づくりに活用できるような年間計画を組む。 ・児童が自分の表したいことに合わせて習得した技能を生かし、働かせることができるよう技術指導を徹底して行う。表現に幅をもたせ、作品に生かすことができるようにする。	・造形遊びの活動を通して思い付いたことを表現する楽しさを知る。 ・既習の学習経験を生かして課題に取り組み、自分の活動や表現に価値付けをしながら活動に取り組むようにする。 ・鑑賞を通して、自分や友達の作品のよさを見付け、言葉で表現させて友達と伝え合う機会をつくる。	・使いたい材料や道具を自分で選び、表現に生かす。 ・参考作品の例示や ICT を活用し、表現の引き出しを増やす。表現に向かって発想を深めることに役立てる。

